

会 議 報 告 書

会議名	令和7年度第1回三郷市地域包括支援センター運営協議会		
日 時	令和7年6月30日（月） 午後1時30分～午後2時50分	場 所	保健センター分室
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 委員紹介【資料1】</p> <p>3 職員紹介【資料2】</p> <p>4 議事</p> <p>（1）審議</p> <p>①令和7年度三郷市地域包括支援センター職員の変更等について 【資料3、資料3-1】</p> <p>（2）報告</p> <p>①令和7年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画・研修計画（市）【資料4】</p> <p>②令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価及び令和7年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画（センター）【資料5】</p> <p>③令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業実績報告【資料6】</p> <p>④令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業収支報告【資料7】</p> <p>⑤令和6年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要【資料8】</p> <p>5 その他</p> <p>①圏域別高齢者数及び要介護認定者数について【資料9】</p> <p>6 閉会</p>		
出席者	<p>【会 長】 清水弘文</p> <p>【委 員】 清水美代子、宍戸六郎、小林真人、南幸一、加藤明子、白石憲雄、岡田敏和、上野あずさ、甲州優</p> <p>【事務局】 益子いきいき健康部長、原山いきいき健康部理事兼副部長、中村介護保険課長、川原介護保険課長補佐、溝口介護給付係長、流介護認定係長、山根介護給付係主査、中村長寿いきがい課長、岡田長寿いきがい課副参事兼課長補佐兼地域包括係長、斎藤長寿いきがい課長補佐兼長寿いきがい係長、福田地域包括係主査、大友地域包括係主任、岡本地域包括係主事、片山地域包括係主事</p> <p>【欠席者】 0人【傍聴人】 0人</p>		

●審議事項における確認事項

議事
1) 審議
①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について・・・・・・・・・・・・・・・・承認
2) 報告
①令和7年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画・研修計画（市）・・・・・・・・承認
②令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価及び令和7年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画（センター）・・・・・・・・・・・・・・・・承認
③令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業実績報告・・・・・・・・・・・・・・・・承認
④令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業収支報告・・・・・・・・・・・・・・・・承認
⑤令和6年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要・・・・・・・・・・・・・・・・承認

令和7年度第1回三郷市地域包括支援センター運営協議会委員 議事内容	
1 開会	
事務局 (司会)	これより令和7年度第1回三郷市地域包括支援センター運営協議会を始める。公私ともにお忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。 開会にあたり清水弘文会長からご挨拶をお願いします。
清水弘文 会長	円滑な会議の運営を図っていくので、ご協力をよろしくをお願いします。
事務局 (司会)	ありがとうございます。 続いて、いきいき健康部長益子よりご挨拶を申し上げます。
益子部長	本日はご多用の中、令和7年度第1回三郷市地域包括支援センター運営協議会にご出席いただき感謝申し上げます。また、日頃より本市の保健福祉行政にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。 三郷市では、今年度高齢化率は27.1%と昨年度よりも0.2%減少しているが、64歳から74歳までの前期高齢者人口は減る一方、75歳後期高齢者人口は増加し、団魂世代の高齢化が数値となって表れている。そのような中、地域包括支援センター（以下「包括」とする）の皆さまには、日々様々な課題を抱える高齢者と向き合って、支援にご尽力を注いでいただいていることに心より感謝申し上げます。 本日の議題として、令和6年度の各包括における実施報告と令和7年度事業計画等について報告させていただく。 委員の皆さまには、忌憚ないご意見とご審議のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
事務局 (司会)	続いて委員と職員の紹介をする。委員の皆さまは、委嘱式後変更はない。引き続きどうぞよろしくをお願いします。
2 委員紹介【資料1】	
3 職員紹介【資料2】	

事務局 (司会)	<p>議題に入る前にお知らせがある。</p> <p>審議事項①「三郷市地域包括支援センター職員の変更等について」、報告事項⑤「令和6年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要」については、三郷市情報公開条例第7条に該当するため、非公開とする。</p> <p>なお、本日の傍聴人はいない。それでは、以後の進行を清水会長にお願いする。</p>
清水 弘文 会長	<p>三郷市地域包括支援センター運営協議会設置規則（第6条）の規定により、半数以上の出席をもって会議を開催とあるが、本日は委員10名中10名の出席なので会議は成立する。それではこれより議事に入る。</p>
<p>4 議事</p> <p>1) 審議</p> <p>①三郷市地域包括支援センター職員の変更等について【資料3、資料3-1】</p>	
事務局	非公開
<p>2) 報告</p> <p>①令和7年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画・研修計画（市）【資料4】</p>	
事務局	<p>2月に開催した令和6年度第3回三郷市地域包括支援センター運営協議会でも報告させていただいたが、令和6年度からの変更点として、虐待件数が増加傾向にあることから、虐待予防の推進を追加し、重点目標を3つ挙げている。</p> <p>①「地域包括支援センターの機能強化と虐待予防の推進」については、包括職員に対して、【資料4】の3ページ目に記載している研修計画を予定している。第1回目は昨年度から始まった「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」において、各地区サロンで行う転倒予防講座の内容を包括や居宅介護支援事業所向けに実施し、各地区サロンで行う講座の共有を図る。これは、地域ケア会議で、室内での転倒による骨折が課題となったこと、また、三郷市における医療費において、転倒骨折が原因となる医療費が上位を占めたこと等から、家庭でできる転倒予防として開催することとなった。第2回目は「複合的な課題を抱える世帯への支援」を予定しており、主任介護支援専門員法定外研修も兼ねて、困難事例に対する対応能力の強化と課題解決に向けた支援を検討し、虐待予防の推進に役立つよう開催を予定している。</p> <p>②「地域の関係機関の連携強化」では、地域ケア会議等の開催を継続し、関係機関との横のつながりを作り、「高齢者の個別的支援事業」を市・包括と連携を取りながら実施し、介護予防・重症化防止に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>③「認知症の本人の視点に立った「認知症バリアフリー」の推進」については、引き続きチームオレンジに対する継続支援と、市職員と認知症地域支援推進員を中心とした本人ミーティングの定期開催の実施や、普及・啓発活動として教育機関に向けた認知症サポーター養成講座や市民向け講演会を実施検討していく。また、市民への認知症への気づきの機会として、「脳とからだの健康チェック」を実施し、予防の観点から検査時にフレイル予防の運動指導を行い、市民へフレイル予防を含めた啓発や、認知症バリアフリーに向けた動きを</p>

	進めていきたいと考えている。
清水 弘文 会長	事務局の説明が終わったので、質疑に入るが何かご質問等あるか。
南委員	令和7年度重点目標概要の中の「高齢者の虐待予防と虐待に対する市の権限行使の判断」とは具体的に何を指すのか教えていただきたい。どのような組織体制からそのような結果につながるのか。また、それに要する期間とはどれくらい必要なのか教えていただきたい。
事務局	一時保護ややむを得ない措置を想定している。家族から電気を止められている等の経済的な虐待を受けている時には、この暑さであると緊急に対応しなければならない状況になる。
清水 弘文 会長	質疑を終了し、次の議題に移る。
2) 報告	
②令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業評価及び令和7年度三郷市地域包括支援センター運営事業計画（センター）【資料5】	
事務局	<p>令和6年度の事業計画・重点目標への評価の主なものとして、包括みずぬまでは、総合相談の対応強化、地域の関係機関や地区サロン等との連携強化、啓発の強化、BCP計画書作成、包括早稲田では、認知症家族の語りの場を開始、個別課題型地域ケア会議の開催、予防プランの委託先開拓として近隣の居宅介護支援事業所へ訪問、包括ひこなり北では包括の機能強化・チームアプローチ、地域の関係機関の連携強化、高齢者の閉じこもり予防、介護・認知症予防の推進、包括みさと中央では地区サロン定期開催のための後方支援、包括便りや地域情報紙の作成、配付を通じた啓発活動、医療と介護の連携、包括みさと南では認知症者の在宅生活期間の限界を延長するために、ケア力の平準化を目指して事例検討を実施、支援希求できない対象者の早期発見では、民生委員を始め近隣者、金融機関、薬局などの気にかける行為が早期発見に繋がり、職員の技術向上のために、各月で学習、事例検討及び年3回の研修会を実施、包括しんわでは、介護予防やフレイル予防、それ以外のテーマでミニ講座や地域ネットワーク会議を開催したという報告だった。</p> <p>今年度の事業運営計画としては、重点目標に①包括の機能強化と虐待予防の推進、②地域の関係機関の連携強化、③認知症の本人の視点に立った「認知症バリアフリー」の推進を挙げている。</p> <p>今年度の各包括運営方針として、相談対応能力の強化、関係機関との連携強化、包括や各制度の啓発、地域でのイベントの開催、研修や会議への積極的な参加等が挙げられた。</p>
清水 弘文 会長	事務局の説明が終わったが、私の個人的な感想として、包括みさと中央の委託件数が0件なのがとても不思議である。
事務局	その件に関しては、【資料6】で説明するので進めさせていただく。
(2) 報告	

③令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業実績報告【資料6】

事務局

1 総合相談事業

1 ページ

①相談方法内訳：こちらは実数の報告となり、初回相談を計上している。全体的な相談件数は令和5年に比べ114件増加している。電話・来所・訪問、文書・メール等全てにおいて増加している。

2 ページ

②相談内容について：厚生労働省の「地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について」の通知において、評価指標項目となる、表中の項目、s 介護予防・生活支援サービスに関すること、t 複合的な課題について、令和6年度から新規に追加しており、いずれも160件以上の相談があった。

a 認知症、b 精神疾患、i 独居、m 入院・退院に関しては、各々50件前後の増加があり、o 権利擁護に関しては24件の増加だった。

高齢者虐待に関しては、令和5年度38件から令和6年度40件となるが、市の虐待通報件数は、令和5年度56件、令和6年度は54件となり、警察通報など市へ直接報告されることも多い。

3 ページ

③相談者内訳：第9期高齢者保険福祉計画・介護保険事業計画に「チームオレンジからの相談を総合相談事業につなげる」という評価指標があるため、チームオレンジを新たに追加し、2件の相談があった。包括や医療相談員からの相談件数が増加しており、ケアマネジャー以外の介護関係者や近隣住民からの相談は減少している。

4 ページから 5 ページ

2 権利擁護事業：全体の件数としては令和5年度69件から令和6年度95件となり、26件増加している。増加した項目は、高齢者虐待、成年後見、認知症、生活相談だった。全体の増加数を見ると、権利擁護業務における支援の割合が増加していることが分かる。

3 包括的継続的ケアマネジメント事業：介護支援専門員からの相談やサービス事業者からの相談件数や②相談内容内訳を見ると、件数は全体的に減少となっている。相談内容では、保証人に関すること、サービス利用料滞納に関する相談が微増している。サービス担当者会議出席数は15件増加しており、会議などで事例対応していることが分かる。

6 ページから 8 ページ

4 指定介護予防支援事業・介護予防ケアマネジメント事業：給付管理件数は令和5年度に比べ1231件増加し、うち委託件数も令和5年度に比べ592件増加している。5つの包括での委託件数は倍近く増加している。特に市内事業所への委託件数も3割近く増加した。包括みずぬま・早稲田・ひこなり北・みさと南・しんわでは市外委託件数が共に増加、包括みさと南・しんわでは県外の委託件数も増加した。委託率は令和5年度15.7%だったが、令和6年度は18.7%となっており、令和5年度第1回三郷地域包括支援センター運営協議

会で、委託に出していくのが良いという方針が協議され、それが活かされている。

9 ページ

②サービス担当者会議では包括みずぬま・みさと南で増加しており、居宅介護支援事業所などと連携に努めていることが伺える。

5 健康状態不明者の把握事業について

令和6年度は包括みさと中央・みさと南・しんわの3圏域で実施となり、今年度は6圏域の全圏域での実施となる。

令和6年度の実施報告について、健康推進課から情報提供があったので、報告する。11 ページ【5 健康状態不明者の把握事業（健康推進課からの資料）】を参照していただきたい。

対象者204名へフレイル質問票を送付し、返信の結果フレイル疑いがないと判断した31名を除く173名に訪問を行っている。訪問の結果、訪問前に死亡したかたが3名、把握できたかたが162名で、フレイル質問票でフレイル疑いなしとなった31名を合わせた195名が健康状態を把握できた。これは対象の95.6%にあたる。

訪問後の支援実績については、対象者204名のうち、健診受診者が14名で、健診受診率は6.9%だった。医療受診勧奨を行った24名のうち、医療を受診したものは13名で、医療受診率は54.2%だった。介護保険については、申請が必要な2名の申請対応を支援し、2名とも認定されている。以上より医療・介護等の支援が必要な人のうち、サービスにつながった割合は56%だった。

訪問実施していただいた包括へヒアリングをした結果、市民から不審がられて面談を拒否されるということが多く聞かれ、対象者に信用していただき、面談につなげることが課題となった。

また訪問後、市または包括で継続支援となった人が11名おり、今まで健康状態が不明であった後期高齢者の中には健診・医療・介護サービスを必要としている人が一定数おり、支援につなげる必要があると感じた。

次に9ページに戻る

6 地域ケアネットワークの構築に関すること：①地域ケア会議は令和5年度は21件、令和6年度は19件だった。過去、令和3年度は3件、令和4年度は13件だったのに対し、回数は増加してきており、顔の見える関係作りの構築が定着してきている。介護支援専門員や各事業所への支援が、包括全体のボトムアップにもつながることから今後も継続し、定期的に地域ケア会議を開催することは重要と考える。また、各関係機関が主催する会議への出席は、困難事例が増える中、顔の見える関係作りを図るきっかけとなり、より連携を図る上で重要となるので今後も参加していく必要があると考える。

会議から出た地域課題について、市としても次につなげられるよう、努力していく所存である。

10 ページ

7 認知症に関する取り組み

令和5年度と比べ、認知症サポーター養成講座の講師の件数、認知症カフェへの協力も合計件数は増加している。地域に出向き住民や社会資源のネットワークを構築する上でも認知症カフェへの協力をとおしてつながりを広げる機会

	<p>でもあるため、ぜひ今後も活動を期待したい。市でも認知症施策を目標に上げており、関係機関の連携を深め、今後も取り組んでいく予定である。</p> <p>8 家族介護支援事業</p> <p>介護者交流会の開催は、介護しているかたの交流会となり、日頃の介護負担や悩みの共有、新たな知見を広げるという意味で意義があり、8回から15回に増加しており、虐待予防にもつながる事業となっている。</p> <p>9 広報誌・チラシの発行</p> <p>各包括で発行回数にはばらつきはあるが、今後とも周知啓発に努めていきたい。</p> <p>10 職員が参加した研修や説明会など</p> <p>各包括合わせ年間170件近く出席し、増加している。</p> <p>11 代行申請</p> <p>介護保険申請では高齢化率の高い、包括みずぬま・早稲田・ひこなり北で件数は多くなっており、介護保険申請と配食サービスは依然、対応件数は多くニーズが高いことが伺える。</p>
清水 弘文 会長	事務局の説明が終わったので、質疑に入るが何かご質問等あるか。
南委員	健康状態不明者把握事業を実施されて、対象者が204名ということだが、何が見えてどんな対応を取られたのか包括のかたにお聞きしたい。
森本 所長 (みさと中央)	私達が訪問することで介護保険のを知り、中には介護保険を利用しないと決めた家族のかたもいたが、介護保険の申請に繋がったかたも数名いた。介護保険のを知っていただく機会として訪問して良かったと感じている。
柴田 所長 (しんわ)	訪問件数が50件だったが、介護保険の申請に繋がったかたはいなかった。訪問した対象者のかたの自立度が高いことと訪問したタイミングで既に歯科受診や受診が開始されているかたがいて、私達が直接支援に関わることはなかった。自立度が高いかたは、受診や健康診断の意識が薄いと感じた。
仁井谷氏 (みさと南)	<p>所長の磯が所用のため、代わりに出席している。</p> <p>ちょうど強盗詐欺が多発している時期で、門前払いが多かった。その時はつながらなかったが、約1年の間で医療に繋がったケースが4~5件程あった。受けるべき人が受けていなかったという印象がある。3度訪問しても会えない人は、三郷市に引継ぎをお願いしたが「三郷市です。」と言うとあっさり会えたという人もいる。</p>
清水 弘文 会長	100歳のかたは生存していたのか。
仁井谷氏 (みさと南)	生存しており、住民票は別になっていたが息子達と一緒に生活をしていた。病気になっても治療することもないから、今回関わりを持たなかったというのが返答だった。
清水 弘文 会長	年金を充てにしている人も散見されるので、そういう見方をしてしまう人もいるだろう。
宍戸委員	1ページ、総合相談支援事業の相談方法内訳の中の包括みさと中央は、電話や来所は多いが訪問は0件となっている。健康状態不明者の対応はできたの

	か。カテゴリーが違うのか。
森本 所長 (みさと中央)	電話がかかってきたら相談を受け、その後訪問日を決め訪問しているが、電話での対応を1としているので、その後訪問しても訪問のカウントを取っていない。最近他の包括の所長に確認し、電話後すぐ訪問であれば訪問でカウントを取っていると聞いたので、当包括もそのように変更しようと思っている。
宍戸委員	委託せず包括で全て業務を行っているようだが、訪問せず対応しているのか疑問に感じた。訪問しているけれど、電話としてカウントしていて、委託せず全て対応していたということではよいか。
森本 所長 (みさと中央)	委託件数が0件に対して、事務所内でも協議しており、できれば地域作りの観点から広い範囲のケアマネジャーに委託したいと話しているが、所内で退職した人もおり、圏域内で依頼できる居宅介護支援事業所を見つけることができなかつた。ただ最近では所内増員し、市内で依頼可能な居宅介護支援事業所を何件か見つけたので、今後は委託することを考えていこうと思っている。
清水 弘文 会長	1包括だけ委託件数が0件なのは、非常に目立つ。委託できるのに職員に無理に対応をさせている三郷市がブラックなのか、委託できる居宅介護支援事業所がないのか、職員の能力がなく委託できないのか、利用者が不利益を被っているのではないかと懸念が出てくる。バランスを考えても0件なのはおかしい。これは所長が決めることなのか。
森本 所長 (みさと中央)	数年委託件数0件が続いている。所内で、自分達が支援者のことを把握していないのにケアマネジャーに依頼するのはどうなのかとの観点から委託件数が0件であった。
清水 弘文 会長	事務所内の総意で委託していなかったと捉えてよいか。
森本 所長 (みさと中央)	そうである。
清水 弘文 会長	話は変わるが、事務局が一生懸命頑張れば頑張るほど、国が削減と言っている社会保障費は上がることはご存知か。
益子部長	抑制効果が期待されるものの、実際には上がるということではないか。
清水 弘文 会長	医療費の枠がひとまとめで社会保障費の中の位置づけである。
宍戸委員	予防として、包括がフレイル対策をしているという認識でよいか。
益子部長	そうである。
清水美代 子副会長	資料のまとめかたについて、数字を追うのが大変なので、今年度の数字の下に括弧書きで昨年度の数字を入れる等数字を追いやすいよう工夫をしていただけると有難い。
事務局	分かりづらく大変申し訳なかつた。説明と資料の書き方について、次回の課題として進めていく。
清水 弘文 会長	質疑を終了し、次の議題に移る。

(2) 報告	
④令和6年度三郷市地域包括支援センター運営事業収支報告【資料7】	
事務局	委員の皆様には事前に【参考資料①～④】の資料をお渡ししているのでご確認いただきたい。 収支報告について、ここで1圏域ごとの説明は省略させていただく。資料のとおりとなる。
清水 弘文 会長	事務局の説明が終わったので、質疑に入るが何かご質問等あるか。
宍戸委員	包括みずぬまは公共施設を借りているが、なぜ賃貸料が500万円もかかるのか。
加藤 所長 (みずぬま)	瑞沼市民センター3階の2部屋を借りているが、年間を通して賃借料を支払っている。賃借料の中に、瑞沼市民センター3階2部屋の賃借分やコピー機・パソコンのリース料も含まれている。
宍戸委員	コピー機やパソコンのリース料は、備品購入費ではないのか。包括みずぬまだけ金額が多かったのが気になった。
加藤 所長 (みずぬま)	購入よりもリースが多いので、社会福祉協議会の会計上では賃借料としている。
清水 弘文 会長	益子部長、三郷市として監査しているとの認識でよろしいか。
益子部長	はい、監査している。三郷市の行政財産の使用料としている。規定の固定資産税として割り出し金額を算出しているが、全額ではない。
(2) 報告	
⑤令和6年度中に対応した地域の特徴的な事例 概要【資料8】	
事務局	非公開
清水 弘文 会長	以上を持って全ての議事は終了した。円滑な議事の進行にご協力いただき感謝申し上げます。 以後の進行を事務局に戻す。
事務局 (司会)	ありがとうございました。 続いて5その他について事務局から報告をする。
5 その他	
①圏域別高齢者数及び要介護認定者数について【資料9】	
事務局	昨年度の数値が記載されておらず、昨年度と比較しての数値になっており口頭での説明になる。 「圏域別高齢者数及び要介護認定者数について」説明する。 圏域別高齢者数及び要介護認定者数については、令和7年4月1日現在の数値である。全域の高齢化率は27.1%で、前年度と比べ0.2%減少している。 総人口数は昨年より106人増加している。高齢者人口は206人減少している。圏域内総人口を見ると、増加している圏域は包括みずぬまと包括みさと中央であり、包括みずぬまが昨年より402人増加、包括みさと中央が290人増加している。減少した圏域は包括ひこなり北は107人、包括みさと南は240人、

	<p>包括しんわでは 195 人減少している。</p> <p>総人口のうち 65 歳～74 歳の人口は、昨年に比べ 1208 人減少している。一方、うち 75 歳以上は 1002 人増加となり、後期高齢者人口が増加し、いわゆる団塊の世代の高齢化が数字となって表れてみられる。</p> <p>圏域別高齢者数を見ても、昨年に比べ全ての圏域で 65 歳～74 歳人口が減少し、75 歳人口が増加している。中でも 75 歳以上人口が多いのは、包括みさと中央の 4083 人、ついで包括みさと南が 4070 人となっている。要支援 1・2 の人数が多いのは、包括みさと南 395 人、ついで包括ひこなり北が 382 人となっている。高齢化率について、包括ひこなり北は 6 圏域の中で最も高く 35.3% となっているが、昨年度から比べると 0.3%減っている。</p> <p>包括みずぬまは、要介護認定率が 13.9%と三郷市内で最も低いが、高齢化率は 32.3%と市内 2 番目に高いので、今後要介護認定率も上昇していくことが予想される。</p> <p>包括みさと中央地区を中心とした若い世代の流入により、高齢化率は減少しているように見えるが、団塊世代が後期高齢者となり、今後要介護認定者数の上昇や団塊ジュニア世代が高齢者になる令和 40 年に向けて、高齢化率の上昇は進んでいくと考えられる。</p>
6 閉会	
事務局 (司会)	<p>次回日程については、11 月 17 日月曜日を予定している。詳細が決まり次第事務局より通知をする。</p> <p>閉会のことばを清水副会長からお願いする。</p>
清水美代 子副会長	<p>以上で令和 7 年度第 1 回三郷市地域包括支援センター運営協議会を終了する。</p>